



雄サケの体に装着された加速度センサー—標津町の標津サーモン科学館

雄サケの精子放出量

雄サケは、繁殖に優れた大きな雌サケに出会うまで精子を節約しているらしいことが、日本一のサケの水族館として知られる標津サーモン科学館（標津町）での実験でわかってきた。実験のカギを握るのは、雄サケの体に取り付けた小さな計測装置だ。

同科学館では今月末まで、実際の川を模した魚道水槽にシロザケ

大きな雌を探して節約？

の雄と雌を入れ、産卵行動を観察できるようにしている。「あれは何か？ 小型カメラ？」と入館者の関心を呼んでいるのが、人さし指の先ほどの小さな装置。雄サケが精子を放出する際に、体を振動させる時間を計る加速度センサーだ。

2年前から実験に取り組んでいるのは、日本大学生物資源科学部助手、牧口祐也さん(31)。サケにコンドームを装着して精子の放出量を量ったところ、振動時間にはほぼ比例していた。振動時間は相手の雌の体が大きいほど長く、精子をたくさん出していることが分かったという。

牧口さんは「雌は大きいほど卵をたくさん出すので繁殖につながる可能性が大きい。雄は小さい雌には精子を少ししか出さず、大きな雌に出会うため節約している」と推測する。

研究成果は、29日に広島大で開かれる日本動物行動学会で発表する予定だ。

(六分一真史)

標津サーモン科学館 体に計測装置付け実験